

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700249		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家いわくら		
所在地	愛知県岩倉市大市場町郷廻310番地		
自己評価作成日	平成24年10月28日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokkensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani-true&JivogvoCd=2374700249-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・必要以外は玄関・リビングの施錠をしない開放的な環境に努めている ・外出できる機会を出来るだけ設けて行こうと考え、日常の買い物や喫茶店をはじめ、誕生会・花見・毎狩り等に出かける機会づくりに職員全員で努力している ・規則正しい食生活も大切ですが、食べたい物を食べていただく、ありきたりな家庭の味を楽しんで頂けるよう努めている ・その人らしい生き方を支援し楽しく暮らしていくことを大切にしているせいか、余命宣告された方も、骨折後リハビリが行えなかった方も、回復したように生活してみえる ・地域密着型サービスとしての地域の方との関わりを大切に(夏祭などの地域行事・軽トラ市・芋煮会など)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>スタッフ全員がホームの理念を理解し「家庭の中で生き生きと自分らしく生活していく」為の支援をしている。スタッフを含めた家庭の中で、各々のペースで生活を楽しみ穏やかに過ごせる様気配りがなされている。スタッフ間の意思疎通が良く、意見や情報が共有され対応されている。ホーム全体が明るく開放的で散歩途中の幼稚園児が訪問したり近所の農家から野菜の差し入れがあったりして地域に馴染んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念をつくり、朝礼・ミーティングの際に復唱し、入所者さんの思いを叶える事が出来るよう職員で共有している	理念は玄関ホールに提示してあり、日々の業務の中でも復唱し再確認をしている。スタッフ各々が理念を理解し入居者各々が「自分らしく生きる為」の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・移転前からの付き合いがある子供たちが遊びに来てダンスを見せてくれたり、地域交流室で遊んだりと出入りしている。日常の散歩では、徐々に地域の方と顔見知りになっており野菜やお花をいただいたり野菜作りのアドバイスをいただいたりすることもある。移転し初めての町内夏祭りに参加した際も、地域の方がたくさん声かけしてくださり、かき氷の差し入れをしてくださったりと温かく迎え入れていただけたと感じている	現在地に転居してまだ1年未満だが区長、民生委員、大家さん達の協力でスムーズに地域に溶け込めた。地域行事への参加、秋祭りの御神輿、保育園児が立ち寄ってくれている。近所の住民とは散歩の時に挨拶しあったり野菜を頂いたりしている。又、認知症ケアアドバイザーの活動に参加し啓蒙や一般の住民からの相談を受ける事ができる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員2名が市内の認知症ケアアドバイザーの活動に参加し、小学校の認知症サポーター養成講座の劇に参加交流している。 ・ホームに閉じこもらず、地域に出向き姿を見てくださいよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に活動報告・入居者状況報告を行っており、会議メンバーからは行事の情報や地域の情報など、意見や感想をいただけている。移転し区長さん、民生委員さんとの関わりで不安があったが、毎回の参加・ご意見をいただくことが出来る	転居で委員が交代した方もいたが委員同士の引継ぎがスムーズに行われ会議の欠席者も少ない。会議の前の時間に避難訓練を行い見学してもらったり、頂いた野菜を調理した食事を食べてもらいホームを身近に感じてもらう努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奇数月は運営推進会議の報告、偶数月は介護相談員さんの報告書を市役所へ持参し、その際に近況報告や助言をいただくなど関係づくりに努めている	運営推進会議には地域包括支援センターか市の担当者が必ず出席しており、行政との関係を保っている。運営推進会議、介護相談員の報告書は出来るだけ持参し、情報交換や相談の機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族さんと相談のうえ、車椅子でのベルト・ベッドの柵を使用している方が1名みえるが、これが当たり前とならないように出来る限り身体拘束のないケアに取り組めるよう努めている。又、勉強会も行い、必要最小限以外の出入口の施錠はしない事としている	現在、家族の意向により車椅子乗車時にベルトを着用している入居者が1名いる。夜勤時間帯は玄関に施錠している。安全と拘束の境を何処にひくか難しいがその場その場で話し合い対処している。スタッフは勉強会に参加し理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会にて学ぶ機会を設けている ・職員が入居者さんに関わる姿をみている、言葉や行動に虐待につながりそうな場面があれば、その場で管理者が注意を含めた教育を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な状況が出てきた場合、計画作成担当・管理者が家族と話し合い行政へつなげるという考え方でいる。全職員に対し学ぶ機会は設けていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問はないかをお聞きしながら十分な説明をさせていただいている。納得理解をいただかなければ契約もしくは解約は行わないようにしている。必要に応じて連絡をしたり、言葉かけを密に行うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	移転してから意見箱の設置はしていないため設置の検討をしている。管理者・計画作成担当者は家族さんの面会があった際出来るだけ話す機会を設け話しやすい雰囲気作りに努めている。また、外部評価時の家族様アンケートは大切な機会なので、職員にも伝え向き合い、必要に応じ検討し見直しを行うようにしている	前住地で意見箱を設置していたが殆ど利用されなかった。運営推進会議の出席時と、面会時の面談が要望、意見を聞く場になっている。時間は1時間以上になる事も有り対応は管理者、フロア長、計画作成担当者としている。ホームと個々の家族との信頼関係は深いが家族同士の接点はない。	ホーム主催の夏祭りに家族の参加は5割程度であった。家族同士がお互いに話合うことで癒されたり新しい発見があると思うのでそうした機会を設ける等の検討・実践を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事や業務の流れ、入居者さんの支援方法についてなど管理者・役職職員だけで決めず、ミーティングや雑談など意見や提案を聞き、職員の意見を盛り込んだ運営に努めている	ミーティングや6ヶ月毎の個人面談の場をもうけているがスタッフからの提言、意見は日常的に常時受け対応している。スタッフと管理者とのコミュニケーションがよく発言し易く対応も速い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回面談を行い、パート職員にも能力を評価し功労金を支給している。随時、働く姿勢や家庭事情に合わせ昇格・降格・条件の変更等のシステムもある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を選ばず学ぶ機会を支援している(1~2カ月に1回の社内研修や外部GHの交流勉強会・見学会など)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内GHとの勉強会・親睦会など相互訪問を通してサービスの向上への取り組みをしている ・愛知県GH連絡協議会に加入し、地域のGHとの交流の場に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・相談から利用に至るまでの間に、1回は来設して頂くようにしている。面談だけでなくフロアにて入居者さんと一緒に過ごす時間も設け、どんなところなのか実際に目で見体感して頂き少しでも不安が取り除けるようにしている。 ・寄せ書きのようなモニタリングを行い、情報の共有化・入居者さんとの関係づくりがスムーズに行えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さん同士でも考え方に違いがある為、それぞれの不安なことや要望などに耳を傾けるよう努めている。また、気軽に相談・質問など受けさせて頂きますよと伝え、聞きやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人さん家族さんの話を十分にお聞きし、今必要なサービスは何かを見極めながら話を進めて行くようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の能力を見極め、食事作りや後片付け、洗濯物の整理等出来る事はなんでもしていただくようにしている ・職員は入居者さんと同じテーブルで同じものを食べ、喜怒哀楽あふれる環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	勤めや事情も様々ではあるが、可能な限り家族さんにも介入して頂き、職員・家族さんが共に支えていくという環境になるよう、状況に合わせた支援を求めているようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人が歌謡舞踊ショウを企画してくださったり、友人と一緒に買い物や喫茶店に出かけられる機会がある	ホーム自体訪れやすい雰囲気があり、家族以外の友人や知人の訪問もある。外出時必要があれば家族と相談し付き添うこともあるし友人と外出する入居者もいる。転居後、馴染みの喫茶店が遠くなり新しい店を開拓中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係を把握し、相性を見ながら関わりあえるよう支援している。孤立している方もいるが、本人の求め・心の声に留意しながら輪に入れそうな場面では促している。無理強いや認知症の進行に影響しかねないので、気分機嫌をみながらさりげなく行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応する心の準備は出来てため、地元のスーパーや喫茶店で会った際には声を掛けていく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現できる方に対しては、希望や意向を確認し行動している。表現できない方場合は趣味嗜好の入居時の把握や、家族さんへ確認したり出来るだけ本人の気持ちに近い状態にできるよう努めている	今迄の生活暦や家族の話を参考にすが、相手の言葉、表情、身振り、を観察し「今、何をしたいのか」を知り、それが当たっているか相手に確認し対応している。新しい情報は引継ぎ簿や気付きシートで全員に共有される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、生活環境、趣味嗜好など、おおまかにお聞きしている。入居されてから、入居者さん・家族さんと馴染みの関係を築きながら、より深くこれまでの暮らしについてお聞きするようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、個別記録に留め、いつもとの違いが見られた時は業務日誌の特記事項欄にも書き記すようにし、現状把握がスムーズに行えるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について3カ月ごとの見直し・意見やアイデアは全職員に提出してもらい、その内容や個別記録をもとに次の介護計画を作成している。家族さんにもその都度要望や意見を聞いている	日常の生活の中で気づいた事があればカンファレンスにかけ計画を修正していく。3ヶ月毎のモニタリングは全員から意見を提出してもらい、カンファレンスや家族との面談を参考にし、介護計画担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録し、情報を共有している。また、目立った変化や気付きがあった時にはミーティングなどで話しあい、より良いケアの実践へと活かす努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は難しいと考えるが、その時々生まれるニーズに対応できるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は市内のスーパーへ職員だけで行かず入居者さんと一緒に外向き社会に触れていただけるようにしている。ボランティアさんも地域資源であることから、畑作業と一緒に行ってくださる方がおり、職員だけでなく1名の入居者さんが毎回一緒に汗水流し楽しんでみえる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族さんの希望を大切にしているが、身体状況・家族さんの希望により徐々に往診に切り替えられる方が増え、現在7名の方が利用している。体調不良や特変に対していつでも相談できる協力医療機関との関係がある	往診やご家族の協力を得て受診支援しているが、ご本人やご家族の希望でかかりつけ医にスタッフが付き添いする場合もあり、本当はコストのご負担をお願いしたいが市からの要請もあり現在はいただいていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師はホームにいないが、状態変化や異常に気付いた時には家族さんの意見も伺いながら様子観察や病院受診を決定している。また、判断に迷う時等いつでも協力医療機関の医師に連絡を取り、相談指示を受けられる環境にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は介護サマリーを作成し看護師に伝えている。入院中も面会に向き、状態を見ながら看護師・相談員から話を聞く機会を設け早期に退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前、看取りを行った事が1度だけあるが、今後も家族さん・主治医・職員も含め十分な話し合いを重ね意向を確認しながら、出来る限りの支援をしていきたい。しかし、9名全員がターミナルの状態にあることは不可能なため、状態によるが各階1名と考えている	ご家族に理解していただくために常日頃から話し合いの場をつくっている。重度化した場合の医療機関をご家族のご協力もいただきながら、一緒に探すなど支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応の流れが、スタッフルームの目の届く場所に掲示してある ・全ての職員が応急手当・対応が出来る状態にないため訓練・研修の機会を設けていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	車椅子の方以外毎月階段訓練を行っている。非常食は2階廊下のクローゼットに3日分常備しており、災害時の備品が何点かケースに入れエレベーターフロアに設置してある。地域の協力が得られるよう、今後も常日頃の地域との繋がりを大切にしていきたい	避難訓練を計画的に実施し、毎月階段訓練を実施している。地域の婦人防災クラブとも連携し、地域の協力もいただけるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染む言葉掛けは一人ひとり違うため、敬語の方・家族のような位置で話す方など入居者さんに合わせ対応している。馴染みの関係が出来ていないと言葉かけが耳障りに感じたりもするため、管理者は職員にその都度気になる段階で指摘し、心地よい言葉かけになるよう努めている	入居者の気持ちを汲み取る努力をして、少しでも残りの人生を輝いてすごしていただきたいと考えておひとりおひとりと向き合っている。ご家族がホームに来ていただいた時も自信を持って普段通り入居者と接する事ができるように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「着る服は？お菓子・飲み物は？お風呂に入りたい時間は？」等、自己決定して頂く場面を出来るだけ作り一人ひとりの希望や願に沿った支援が出来るよう努めている。9人9色のため難しい場面も多々あるが、共同生活には我慢も時には必要なので偏らないように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため日課のペースはあるものの、出来る限り入居者さんの言動をよく観察し、今何を望んでいるのか、どうしたいのかを見極め、無理強いすることなくその人のペースに合わせた過ごし方が出来るよう努力している。気候や気分により突然の外出にも職員の前向きな姿勢によっては実行している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度移動美容の訪問があり、散髪・毛染め・パーマ・顔そりを個々の希望に合わせて行っている。衣料品の購入の際も出来るだけ個人の好みに配慮したい思いで一緒に行くようにしている。化粧する方の支援も続けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を見極め、出来る範囲で調理・後片付けに参加していただいている。年齢の若い方には揚げ物を行ってもらうこともある。食事を楽しんで頂けるよう、変化のある献立も考え提供している	なるべくご本人が好きなのを食べていただきたいと考え実践している。外食にも積極的に取り組み、予定外であっても入居者と盛り上がり突発的に回転寿司へ行ったりと楽しみながらやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・バランスを考え野菜を多く使う事を心掛けている ・ミルサー食の方が2名、かたいものが苦手な方も多い為、調理しやすい形を崩さず済むような柔らかい食材選びに心掛けている ・食事や水分摂取が落ちている方には、別の記録を用いて職員が把握できるようにしている。状態によっては医師にも相談し摂取量の改善に努めたりもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・就寝前の口腔ケアは毎日行っているが、毎食の対応は口腔内に残渣物が気になる方のみになっているため努力が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるよう、個々の排泄パターンの把握に努めトイレの促しを行っている。パットやリハビリパンツの使用についても状況を把握し全職員で検討しながら対応するようにしている。	入居者おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、なるべくお手洗いで排泄していただけるよう配慮している。状態が良ければリハパン等に頼らない努力もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の促し、散歩や体操を行い身体を動かすよう努めている。便秘薬を服用している方には排便状況に合わせ調節も行っている ・運動として排泄に余裕があれば遠くのトイレを利用するように促す ・毎日1本乳酸菌飲料を飲んでいただいている 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から行っている。安全と自立支援を大切に、最大で5人までの入浴としている。本人の希望を聞きながら、毎日入ったりする方もみえる	ご本人の希望を尊重しながら入浴を楽しんでいただけるよう支援している。入浴が嫌いな方にも強引に入っていたくのではなく、いろいろ工夫して納得して入浴していただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中部屋での休息は、昼夜逆転を招かない程度に自由にしている。就寝は、個々の状況に応じたタイミングを見て促すようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の数や目的が確認できるよう、写真で掲示したり薬ファイルをつくり、職員が誰でも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室や廊下のモップがけは日課とし行っている。色塗り、書写、畑仕事など、一人ひとりの得意なこと好きなこと出来る事を把握し、小さな事から何か役割を見つけ出し、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が言える方が少なくなってきたため左記のような対応が難しくなっているが、買い物に行きたい・外出したいという希望があれば希望が叶えられるよう職員が協力し実行するようにしている。また、外出してみても発見できる入居者さんの能力やパワーもあるため、少人数での外出に努めていく	ご本人の希望を把握し、少しでも楽しく外出していただけるよう努力している。同一法人の温泉があるデイサービスにみんなで入浴しに行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来そうな入居者さんは家族さんと相談のうえ財布を所持している方が1名みえる。買い物に出かけた際には自身の財布にて支払う事が出来る。また、買い物をした際には使った金額を部屋のカレンダーに記入していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人の手助けにより年賀状を継続している方、友人や市役所に希望があれば電話をかける方がみえる。希望に応じて今後も対応可能である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋でくつろぐ事が少なく、ほとんどの方がリビングで過されるため、居心地良く過ごせるようなテーブル・椅子の配置に努めている ・2月に移転し生活は整っているが、白い壁が多い為生活感にかけている為、絵や手作りの品を飾る等の工夫が必要と考え、現在入居者さんと少しずつ作成に取り組んでいる	移転し新しい建物になったため、どのような空間が過ごしやすいのか、常に考え中である。清潔で自然な明かりも入ってくるリビングで入居者はゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人目の付きにくい場所(廊下やエレベーターホール)に椅子やソファを設置してあるため、そこで過ごす方もみえる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたものを持って来ていただくよう入居時に伝えているため、写真や仏壇やテレビ等持ってみえる方もおり、自由に個人の空間を使っている	ご家族に協力していただき、馴染みのものを持ち込んでいただくなどして居心地よく過ごしていただけるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	寝具やタンスなどの配置は、本人さんと相談し決めたり、家族さんにも相談しながらそれぞれの身体状況に合わせた配置に努めている		